

2009年3月27日

近藤邦明、楢田敦

本年2月20日付で、論文採用不可について、拒否理由が不当であるとして審査し直すよう求めた。これに対して、3月19日付で再考の余地なしという返事があったが、拒否理由が不当か否かについては、弁解さえも、何ひとつ記載されていない。

その拒否理由は「気温がCO₂濃度に先行することを根拠とし、数年スケールの変動の因果関係で長期トレンドの因果関係を同じとする根拠はない」というものであるが、これはわれわれの論文を不当に歪曲したものである。われわれの論文では、

- ① 「気温がCO₂濃度に先行する」ことを根拠にはしていない。

逆に、気温高が原因でCO₂濃度の上昇となる結果、そのものと変化率のどちらの場合も、気温がCO₂濃度に1年先行することになることの論理を示した。

- ② 数年スケールの変動での因果関係を論拠にしていない。

逆に、34年の長期にわたって気温高が原因でCO₂濃度上昇となる新事実を示し、30年間気温偏差の平均はCO₂濃度増のない温度より0.6℃高いことを示した。すなわち、「CO₂濃度高により気温が上昇した」のではなく、逆に「気温高によりCO₂濃度が上昇した」ことを示したのである。

以上述べたように、編集委員会の採用不可との判断は、われわれの論文の主旨を不当に歪曲して得たものであり、およそ科学論文を審査するという態度が見られない。

なお、両査読者は、この「気温高がCO₂濃度上昇を引き起こす」という新らしく発見した事実(元原稿の前半)についてはこれを否定するコメントをしていない。彼らの否定的コメントは元原稿の後半部分である。そこで、元原稿の前半については両査読者の了解を得ているものと考え、これと元原稿の後半とを切り離し、前半をⅠ部、後半をⅡ部とし、今回Ⅰ部だけを投稿し、Ⅱ部については両査読者の意見を考慮して書き直すこととし、後に投稿することにしたものである。

間もなく2009年4月になる。新らしく発見した事実(2008年4月)の発表をこれ以上遅らせることのないよう求める。

連絡先 会員 楢田 敦

横浜市緑区寺山町524

FAX 045-935-2141